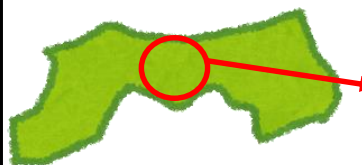


取組の概要

- 計画作成主体：倉吉市農業再生協議会
 対象品目：野菜（すいか）（産地面積246.6ha）
 主な取組主体：鳥取中央農業協同組合
 成果目標：販売額の10%以上の増加(単位面積)
 基準（H29年度）1,208千円/10a
 目標（H33年度）1,333千円/10a
 導入施設等：生産支援事業（鳥取型低コストハウス
 整備に係る資材、遮光資材の導入）



鳥取県倉吉市、北栄町、琴浦町、湯梨浜町、三朝町
JA鳥取中央管内(倉吉市、北栄町、湯梨浜町、三朝町、琴浦町)地区

ポイント

【取組の主題(テーマ)または課題】

すいかのトンネル栽培は、気象災害・天候不順等による作業遅れから、果実の品質低下(高温による肥大不足、果実のうるみなど)が生じているほか、生産者の高齢化に伴い大規模経営の適期作業が困難になったことから栽培面積を縮小する農家が出始めた。

一方、すいかのハウス栽培は、天候に左右されずに計画的に栽培を進めることが可能な上、トンネル栽培に比べ早期の出荷が可能、高単価が期待できる等のメリットがあることからハウス施設の導入を進めているが、近年は資材価格の高騰が導入のネックとなっている。



【産地の体質強化に向けた方策】

従来型ハウスよりも価格が抑えられる鳥取型低コストハウスの導入により建設費の削減を図るとともに、早期出荷割合の増加や遮光資材(寒冷紗)によるうるみ果の抑制により、10a当たりの売上高の増加を図り、次世代に繋げる産地育成を進める。

推進体制

- 中部総合事務所農林局(県)
- 倉吉市、北栄町、琴浦町、湯梨浜町、三朝町
- 鳥取中央農業協同組合

指導・助言

- 倉吉市農業再生協議会
- ①計画の策定・管理
 - ②取組計画への助言

情報共有

- 協議会与取組主体(農協)との情報共有(取組状況等)
- 行政機関(県、町)によるサポート体制

- 取組主体(農協)
- ①取組計画の作成
 - ②取組実施等

地域における独自の取組

〈主な取組〉

「鳥取型低コストハウスによる施設園芸等推進事業」、
「園芸産地活力増進事業」と連携して、施設園芸を加速的かつ戦略的に生産拡大

期待される事業効果

【事業実施による直接効果】

野菜(すいか)栽培の施設化により、計画的な栽培・出荷が可能となり、収量・品質および反収が向上。

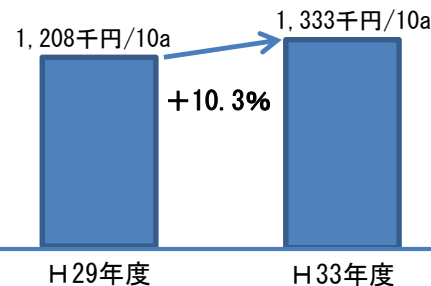
【事業実施による間接効果】

販売額の増加により、生産者の所得向上につながり、野菜(すいか)の産地強化を実現。



販売額が増加

～すいかの販売額～



鳥取型低コストハウス